

平成29年1月

山下亜矢子 学位論文審査要旨

主査	尾崎米厚
副主査	兼子幸一
同	吉岡伸一

主論文

Resilience associated with self-disclosure and relapse risks in patients with alcohol use disorders

(アルコール使用障害患者の自己開示と再燃リスクに関連するレジリエンス)

(著者：山下亜矢子、吉岡伸一)

平成28年 Yonago Acta medica 59巻 279頁～287頁

参考論文

1. 女性アルコール依存症患者の回復支援システム構築に向けた課題（第1報）

(著者：山下亜矢子、服部朝代、吉岡伸一、塚原貴子)

平成27年 川崎医療福祉学会誌 25巻 193頁～203頁

審 査 結 果 の 要 旨

レジリエンスは深刻な危険性にも関わらず適応しようとする能力、過程、回復力、現象を指すが、アルコール使用障害患者の回復に伴う詳細は十分に検討されていない。本研究は、断酒会などの自助グループに参加するアルコール使用障害患者の回復に関連する自己開示と再飲酒リスクへの影響を、資質的及び獲得的レジリエンスに分けて検討したものである。その結果、レジリエンスが高いアルコール使用障害患者は再飲酒リスクが低下し、回復過程で獲得的レジリエンスが高まると自己開示が深まることが明らかとなった。アルコール使用障害患者の自然回復力を促進する有効な手段として、自助グループ参加やピアサポートによる安心できる対人関係の構築と自己開示を深める環境調整の必要性が示唆された。本論文の内容は、精神医学の分野で、アルコール使用障害患者の回復におけるレジリエンス向上の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。